

府立堺支援学校



テーマ：『校内体制を整備し、視線入力装置や1人1台端末の活用を効果的に取り入れた学習活動の充実をはかる』

概要 府立堺支援学校では、昨年度のパッケージ研修支援での成果である「児童生徒がより良く学ぶことができるツールとしてのICTの活用」を踏まえ、今年度は「校内体制」「視線入力装置」をキーワードとしてパッケージ研修を行いました。

校内全体研修では、「府立支援学校における児童生徒1人1台端末の活用促進に向けたアクションプラン」等を提示しながら、支援教育においてICTを活用する視点や授業の在り方を教員間で共有しました。研究授業・協議では、児童生徒の学習活動の充実に向けて具体的・計画的に授業を実施していくことを通して、ICTの活用について再確認することができました。校内体制についても、授業実践が教員間でより確実に共有できるよう、ICT推進チームを立ち上げ整備し、今年度のパッケージ研修支援において校内研修を運営されていました。

実施スケジュール

Research

6月24日(金) 担当者、担当指導主事と、今後の進め方について打合せ

Vision

7月27日(水) 校内全体研修の実施

Plan

12月19日(月) 指導案検討
指導主事による授業見学

Do

12月19日(月) 研究授業
12月21日(水) 研究協議・実践報告会

Check & Act

1月中旬 アンケート集約

全体会

7月27日(水) 「ICTを効果的に取り入れた学習活動の充実」

支援教育推進室指導主事より(以下資料より抜粋)

児童・生徒の障がいの状態や特性等に応じて端末のアクセシビリティ機能を活用するため、各教員が実際に、端末を用いる機会を設定しました。さらに、端末やアプリを活用し、今後の授業づくりにもどのように生かすことができるか等の交流をし、ICT活用の目的やポイントについて講義を行いました。

アプリやアクセシビリティ機能を試してみよう ワーク③

タッチ調整
【Assistive Touch】→【カスタムジェスチャー】
スワイプが苦手な時

絵本アプリや検索画面で試してみよう

学校におけるICTを活用した学習場面

一斉学習	個別学習	協働学習
<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒が各自の学習内容を確認し、必要に応じて先生や友達に質問する。 ② 先生は、児童生徒の学習状況を把握し、必要に応じて個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒が各自の学習内容を確認し、必要に応じて先生や友達に質問する。 ② 先生は、児童生徒の学習状況を把握し、必要に応じて個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒が各自の学習内容を確認し、必要に応じて先生や友達に質問する。 ② 先生は、児童生徒の学習状況を把握し、必要に応じて個別指導を行う。

授業の在り方について ―ICT機能と実物教材等を組み合わせた「ハイブリッドな授業展開」―

ICT機能を活用して授業を進めよう

視線を通して活用

実物教材等と併用

ワーク④(グループ)

ICTを活用できる場面を考えてみましょう。

- ①先生方でグループを組む。(同じ学年など)
- ②単元を決めてどのようにICTを活用するか考える。
- ③児童・生徒役と先生役を決めて実際にその場面をロールプレイしてみる。

どのよう学習場面	タブレット端末のアプリの機能などICTを活用したもの	期待される効果

活用のポイント

(この授業・単元で) 得ることができるのか? 何を学ぶか? どのように学ぶか?

→主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
→ICTを使うことが目的ではない

研究授業

学年・教科： 小学部第2学年 「自立活動」

題材名： 「3匹のこぶた」

ICT を授業で活用していくというテーマに沿って、とりわけ今年度は、視線入力装置の活用について考えられました。

視線入力装置を活用することで、子どもたちの意思表示をサポートする効果が期待され、本時の授業では、児童が自分の気持ちを伝える、友達の活動に興味を持って繋がっていくという目標が設定されていました。

さらに本時の展開では、お話の内容に沿って見立て遊びを行う中で、児童が自分で好きな方法を選択して伝え、対象物に関わっていく活動が設定されていました。

研究協議の
ポイント

見たて遊びでは、フラフープでの操作、視線入力装置での入力やスイッチを押すことでボールが飛び、段ボールの家が倒れる工夫が考えられました。

協議のポイントは、視線入力装置やスイッチなどの支援機器が授業のどの場面で効果的に使われていたか、さらに視線入力装置が、今後の子どもたちのコミュニケーションの方法の一つとして活用できるかという点について話し合われたことです。



成果

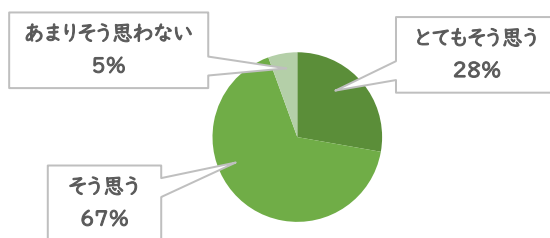
今回の研究授業では、子どもたちが、二択の中で選択し、伝えることができるよう、視線入力装置やスイッチなどの支援機器を用いた様々な工夫や仕掛けがありました。

ICT を活用することで障がいによる学習上または生活上の困難さを改善・克服するための工夫の観点や視線入力装置の具体的な使用の仕方について校内で共有することができました。

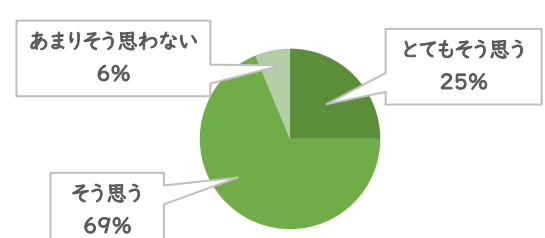
また次年度に向けて、授業・単元で「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」ということを踏まえて教科の目標について意識することの大切さを確認しました。

アンケート
結果

① 学校のニーズに添っていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想やご意見より)

- ・ 視線入力装置を取り入れた授業の組み立てが分かりました。
- ・ ICT など様々な新しい事を取り入れたり、PDCA サイクルで授業を見直したりすることが当たり前できるように、今回のような研修を続けていってほしい。
- ・ いろいろなアドバイスを頂けたので勉強になりました。
- ・ 教科学習の目標の立て方を考えていかなければいけないことを認識する機会になりました。
- ・ 視線入力装置を使った授業をすることで、他学部、他課程の教員にも良い例が提示でき、また実施された教員をはじめ、関わった教員すべてに良い機会となったと思います。
- ・ 前年度に引き続き研修支援頂いたことで、これまで取り組んできた授業に対して、より明確な評価、フィードバックができ、学部を越えて、ICT 機器の活用についての引き出しを増やすことができました。